



令和5年度 2月人権一口講座



「いきいきと自分らしく暮らせる世の中へ」

日本国憲法には、「個人の尊厳」と「法の下の平等」がうたわれ、男女平等の実現に向けた様々な取組が行われてきました。しかしながら、「男は仕事、女は家庭」といったような性別による固定的な役割分担に基づく人々の意識や社会慣行は依然として根深く、様々な場面で男女間の不平等を感じることもまだまだあります。

人口減少と少子高齢化の進展、家族形態や地域社会の変容、雇用・就業をめぐる変化、経済のグローバル化など、社会経済情勢の急速な変化に対応し、将来に渡り持続可能な社会を実現するためには、多様な人材、新たな価値観や思考等が必要です。

そのためには、性別に関わらず、誰もがともにいきいきと、個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現が不可欠です。
(熊本市男女共同参画課ホームページより一部引用)

「ふれあい文化センター初の女性社会教育主事」として5年目を迎えました。仕事柄、学校や地域団体・講座生の方々に講話をすることが多いのですが、昨年の四月には、熊本市医師会立看護学校の学生さん達が学びのために来館されました。

「よろしく願います！」講話を始めようと学生さん達の前に立ち視線を向けました。

「多い……！」驚いたのは、思った以上に男子学生の姿が多かったことでした。

……「今は看護婦さんではなく看護師さんだった！」

今、世の中は変わってきています。例えば「男性の職場」「女性の職場」との考えは薄れつつあります。「バスの運転手」「トラック運転手」「パイロット」そうそう、初の女性海将が海上自衛隊でも任命されたとのニュースも見ました。

育児を行う男性を指す「イクメン」や理系の女子を意味する「リケジョ」という言葉、これらは「育児は女性がするもの」といった固定観念や、「理系に進むのは男子」という先入観が生んだものです。過去の社会や文化の中で「ごく自然に使われていた言葉でも、ジェンダーバイアスの観点からすると「問題あり」となる場合が今の時代ではあるのかも知れません。このような言葉を発するときには、意識的に注意することが、これからは必要だと思います。

誰もが社会の中で「能力ある個性をそなえたひとりの人」と認められ、性差など意識せず互いに「認め・励まし・協力」しあえる、社会の一員として自分らしく暮らせたいですね。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」令和5年度 二月号より)



短いメッセージ

みんなはぼくに 元気をくれる太ようだ
ぼくも みんなの太ように なりたいな

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 西里小学校3年 古閑大翔さんの作品より